

平成19年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	認知・行動・学習・発達などの理論に基づいた学習評価システムの開発、および『憧れ』を『やる気』に進化させるライブ型e-learningの実践		
法人名	学校法人上田学園		
学校名	大阪総合デザイン専門学校		
代表者	理事長 上田 哲也	担当者 連絡先	上田学園メディアセンター 主任研究員 鶴 鉄雄 TEL 06-6371-1661
<p>1. 事業の概要</p> <p>本事業では、学生と活躍中の現役デザイナーおよび漫画家の制作現場をWebカメラで結び、通常では見ることができないプロフェッショナルの制作過程やクライアントからの要望を作品に反映させていく場面に触れる機会を設けた。</p> <p>また、憧れている現役デザイナー等に触れることにより学生のモチベーションがどのようなに変化したのかを、科学的に分析しその効果を計測した。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>本事業の目的は、「本物に触れる機会」が学生にとってどのような刺激となり、変化を促し、モチベーションを向上させることにつながっているかを、心理学、人間関係学、行動学といった発達理論を踏まえてその変化を数値化し、評価するためのシステムを開発することにある。</p> <p>5回にわたって、学生の『憧れ』の対象であるプロフェッショナルとのライブ授業を実施したが、受講の前後で学生の『学び』に対する気持ちにどのような変化が生じたかをはかるため、評価分科会で開発した事前用、事後用それぞれのアンケートにて比較を行ったが、以下のような変化が数値的に明らかになった。</p> <p>●学習志向性の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部からの要因で学習を行う数値が全般的に減少している。 ・特に、外部から褒美や報酬をもらえることが学習の動機付けとなっている数値が減少している。 ・自分から学ぼうとする思いが全般的に上昇している。 ・自分から将来のことや生活のことを考えて勉強をしたいと思う気持ちが大幅に増加している。 <p>外部から言われて学習を継続するという気持ちよりも自分から積極的に学ぼうとする気持ちの方が上回り、ライブ授業の後はその傾向がさらに強くなったことから、モチベーションの向上に大きく影響していると考えられる。</p> <p>●学習方法自己評価の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリエイティブ型の学習方法を好む者は大幅にダウンした。 ・ロードマップ型の学習方法を好む者が大幅にアップした。 ・サイクル型およびストラテジー型は若干のアップにとどまった。 <p>これらのことにより、多くの者が一つひとつ理解を伴った勉強方法を好むようにシフトしたといえる。</p>			

②事業により得られた成果

今回、ライブ型e-learningによって『憧れ』のプロフェッショナルである漫画家やデザイナーに触れることが、学生のモチベーション向上に影響を与えることはある程度予測していた事項である。以下に今回の取り組みから得られた結果(考察)を示す。

- ・ライブ型e-learningは、狙い通り学生のモチベーションを上昇させることができる。
- ・多くの専門学校生は、自分の技術や技能を高度化させたいと思って授業を受けている。
- ・多くの専門学校生は、ひとつの物事を多角的に考えていくようなグループ学習のような教育形態を好む。
- ・学生個々のモチベーションは、ライブ型e-learningにより「カリスマ」に会える、話ができるなどの期待の強さとその結果が大きな価値を生み出している
- ・ライブ型e-learningは、学生個々の内在する好奇心や探求心のような内発的なモチベーションに刺激を与えるには有効な学習方法である。
- ・モチベーションは、一定の目標行動に方向付けを導くものであり、ライブ型e-learningはこの方向付けを導く手段として有用であり、学生個々人のみならず空間を共有する全体に影響を与えるものでもある

このほか、予期しなかった成果として、実証講座を行ってから約1か月後に学内で行われた就職説明会において、企業から「今年度の学生は積極性がある」との評価を受けた。その評価された学生の多くは今回のライブ型e-learning実証授業参加者であった。

また、今回ライブ授業を受けた1年生と、現在の2年生の同時期の様子を比較すると、明らかに現在の1年生のほうが積極性が高いという現象が起きており、これもライブ型e-learningの成果の一つと考えられる。

③今後の活用

限られた機会を最大限に生かすため、対象学年や実施時期について、今後実施するにあたっては以下のような配慮が必要である。

■受講対象者:

2年制の学科の場合、遠隔授業後の教育成果を考慮すると1年生を対象とすることが望ましい。

■実施時期:

1年次の前期終了後、10月または11月が望ましい。学校環境にも慣れ、前期作品を提出し気持ちに余裕が生まれる反面、緊張感や目標を見失いがちになる傾向がある時期。また、2年生が対象となる場合は進級直後の4月または5月が望ましい。

■講師:

最も重要な条件と考える。今回、漫画家の選定については東京の出版社に協力を仰いだ。依頼した際、「学生により近い、デビューしたての新人の方が良いのでは？」という提案もあったが、より多くの学生が憧れ、将来の目標とする存在であることが望ましい。また、ライブにおける話の内容も大事だが、作家自身が持っている風貌、仕事場の雰囲気等も重要である。さらに、教員がプロフェッショナルである講師に対して敬意を払う姿を学生に見せることも効果的である。

ファッションデザイナーは本校の非常勤講師や系列の出版社に紹介を依頼した。若者に人気のストリートファッション、マスコミに取り上げられる機会の多いコレクションデザイナーの協力を得ることができたが、多忙なスケジュールと授業日程の摺り合わせに困難を極めた。

漫画家、デザイナーとも多忙な中での協力いただくこととなるため、学校の年間スケジュールに組み込んで計画的に実施できるようにすることも重要である。

こうした点に留意することと、テンポ良く会話をつなぐ司会者の存在がライブ授業を成功させる要因となるため、今回の様子を記録したDVDを活用して教員の対応についても研究を行い、今後につなげることにしたい。

④次年度以降における課題・展開

今後、継続的に『憧れ』のプロフェッショナルとのライブ授業を実施していくためには、協力していただける『憧れのプロフェッショナル』を発掘することや、限られた時間で最大の効果を生み出す司会進行の段取りや司会者のパーソナリティ、デザインや漫画の場合未発表の作品等があふれるアトリエを撮影することになりその安全性の確保など、解決すべき課題は多い。

しかし、学生たちに目に見える変化が現れたことや、学生だけでなく教員にも良い刺激となり、組織自体の活性化につながるという二次的な効果もあった。『本物に触れる機会』が学生のやる気を向上させる。保護者や教員以外の大人と接する機会が学生をより成長させる。そういった環境を学校としていかに提供できるかが大きなポイントとなる。今後も学園としてこのような取り組みを続けていくとともに、今回の成果を他校でも活用できるよう、普及に努めたい。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

本プロジェクトの計画上は、実態調査等の調査を行う予定はなかったが、専門学校生が学習に対してどのような志向性を持っているのか計測することとした。

本プロジェクトの内容を理解し、学習志向性調査にご協力頂いた学校は、36校、8,075名。たいへん多くの学校や学生の協力を得ることができた。

②カリキュラムの開発

本プロジェクトの目的は、短期的な講座が学生の学習モチベーションをどのように変化させるのかを計測・検証することであるために、特段のカリキュラム開発は行っていない。

③実証講座

学生に対するライブ型e-learning(実証講座)として、下記の通り5回にわたる授業を実施した。

■第1回ライブe-learning

講師:大石普人(漫画家)

場所:大石先生の仕事場(東京)および

上田安子服飾専門学校ライラックホール(大阪)

日時:2007年12月4日(火)14:00~15:00

受講者:大阪総合デザイン専門学校漫画学科1年生 41名

■第2回ライブe-learning

講師:皆川亮二 漫画家

場所:皆川先生の仕事場(千葉)および

大阪総合デザイン専門学校学生ホール(大阪)

日時:2007年12月14日(木)14:00~15:00

受講者:大阪総合デザイン専門学校漫画学科1年生 41名

■第3回ライブe-learning

講師:堀木厚志 ファッションデザイナー

場所:堀木厚志先生の仕事場(東京)

上田安子服飾専門学校ライラックホール(大阪)

日時:平成20年1月18日(金)

受講者:上田安子服飾専門学校

ファッションビジネス学科1年生 80名

■第4回ライブe-learning

講師:津村耕佑 ファッションデザイナー

場所:津村耕佑先生の仕事場(東京)

上田安子服飾専門学校ライラックホール(大阪)

日時:平成20年1月21日(月)

受講者:上田安子服飾専門学校

ファッションクリエイター学科 1・2・3年生

ファッションクリエイターアドバンス学科 1・2年生

ファッション工芸デザイン学科 1・2年生 合計98名

■第5回ライブe-learning

講師:勝井北斗 八木奈央 ファッションデザイナー

場所:勝井北斗先生 八木奈央先生の仕事場(東京)と

上田安子服飾専門学校ライラックホール(大阪)

日時:平成20年1月22日(火)

受講者:上田安子服飾専門学校

ファッションクリエイター学科 1・2・3年生

ファッションクリエイターアドバンス学科 1・2年生

ファッション工芸デザイン学科 1・2年生 合計118名

④その他

実施にあたっては、学内にある機材等を活用し汎用性の高い環境でライブ授業を実施できるよう心がけた。インターネット環境については、相手先が漫画家やデザイナーのアトリエであり、先方の環境に依存することとなるが、今回、光回線とADSL回線双方の環境で実施する機会があったが、いずれもパソコン等の設定により満足のできる結果を得ることができた。なお、映像と音声双方を配信できるシステムを利用したが、音声については途中から「スカイプ」のシステムを使い、画像と音声いずれかに障害が起きてもライブ授業自体が中断しないように工夫した。